

10. 国際資源評価事業（日本周辺クロマグロ）（公募型研究）

担当者 調査研究部 藤岡 崇

（1）目的

国連海洋法条約ではかつお・まぐろ類等の高度回遊性魚類について、沿岸国及び漁業国が直接もしくは適当な国際機関（北太平洋マグロ類暫定科学者委員会）を通じてその保存・管理に協力することになっている。我が国周辺においてはクロマグロなどが来遊し、各種漁業により漁獲されている。本事業は、我が国海域および隣接する公海を回遊するマグロ類資源の資源評価および適切な資源管理方法を確立するため、科学的なデータを収集することを目的とし、独立行政法人水産総合研究センターの委託を受け実施している。

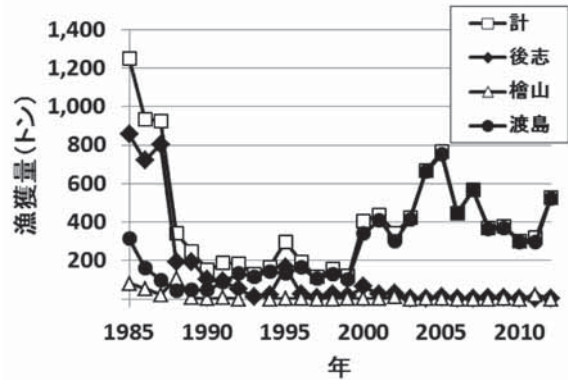


図1 マグロ漁獲量の推移

（2）経過の概要

漁獲状況調査

中央水試資源管理部と共同で、渡島、後志支庁管内の7漁協（余市郡、東しゃこたん（古平、美国）、寿都、島牧、松前さくら、戸井）を対象に、日別、漁法別（定置網、釣り、延縄）、銘柄別（メジ・マグロ等）、製品別（ラウンド・セミドレス）のクロマグロの漁獲尾数と漁獲重量を調査した。また、支庁別漁獲量を調査した。

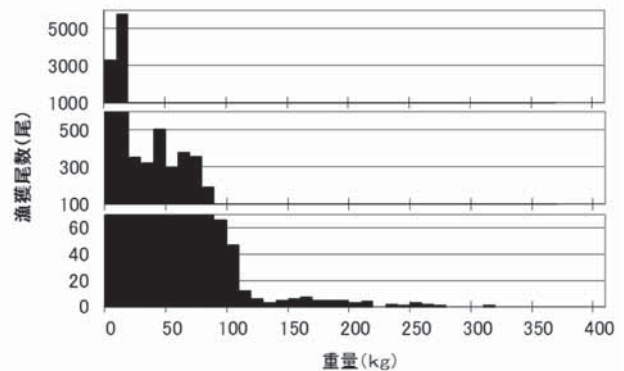


図2 クロマグロの重量組成（主にセミドレス）

（3）得られた結果

漁獲状況調査

北海道におけるクロマグロの漁獲量は（図1）、1985年には1,200トンを超える高い水準を示したがその後減少し、1990年代は200トン前後で推移した。2000年以降は増加し、2005年には837トンの水揚げがあった。その後減少し2008年以降は400トンを下回り、2010年には299トンと300トンを下回った。2012年は前年を上回り526トン（暫定値）であった。

近年では渡島支庁管内の漁獲量が全体の約9割以上を占めており、2012年には渡島支庁管内で521トンの水揚げがあった。

渡島管内の3漁協（松前さくら、福島吉岡、戸井）で水揚げされたクロマグロの重量組成（主にセミドレス）を図2に示した。水揚げされたクロマグロの重量範囲は3.3～311kgで、10～20kgの個体が多めで多く、次いで0～10kgが多く漁獲された。20～80kgの個体はそれぞれ300尾以上漁獲された。

なお詳細については「平成24年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告書、2013年3月、独立行政法人水産総合研究センター」に記載した。